

ふくしま県人会だより

第41号
令和2年1月
福島県人会
北海道連合会

福島県人会北海道連合会長

新年あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 田中 四郎



謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

道内各県人会の皆様には、令和の輝かしい新年を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。日頃は、福島県人会北海道連合会行事に御

支援と御協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

そして、昨年の旭川での総会には多くの会員の皆様の御参加を賜り誠にありがとうございました。

令和二年、第四十八回の連合会総会は、五月二十四日、函館市湯の川温泉において開催されます。只今、函館福島県人会会員の皆様が準備をしておりますので、多数の会員の参加をお待ちしているところです。

函館は、ペリーの来港により、長崎、横浜と同じく港を開き、欧米の文化を受け入れた日本初の都市です。

そして函館は、福島県とのつながりが特に深く、一般に箱館戦争と云われておりますが、戊辰戦争の最後の戦場でもありました。函館県人会の皆様は、毎年五月に、道内最古の

曹洞宗の禅寺、高龍寺内にある、慰霊碑「傷心惨目碑」前で会津藩士の回向をしています。このように函館は、歴史的に見物する所がきわめて多くあります。総会に参加して、是非とも良き思い出を作ってください。

さて、昨年は、明暗を分けた年でもありました。明は、新天皇が即位し令和の新しい時代を迎えまして、国民一同こぞって祝意を表しました。暗は、台風19号による豪雨で福島県は、阿武隈川と夏井川の氾濫により、甚大な被害と多くの犠牲者を出しました。ニュースを見る度に心を痛めておりました。

これに対し、連合会で何かできないかと支援の方法を考えているところです。役員会で検討し結論が出ましたら、各県人会に御協力をお願いしたく存じます。

御協力と会員各位の御健勝を御記念申し上げます。御挨拶と致します。

福島県知事

新年あいさつ

「夢と希望をつなぐための挑戦」

福島県知事 内堀 雅雄



謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

震災から間もなく九年を迎えようとしております。県民の皆様の懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、福島県は復興への歩みを着実に進めてまいりました。

一方で、今もなお、多くの方々が避難生活を続けておられるほか、急激な人口減少、さらには、台風第19号等の大雨による甚大な被害が発生するなど、本県は、二重・三重の困難を抱えております。

県といたしましては、引き続き、危機意識とスピード感を持って、これらの重い課題からの復興と地方創生に取り組んでまいれる決意であ

ります。

まず、避難地域の復興・再生につ
きましては、被災者の生活再建と生
業の再生を始め、廃炉・汚染水対策
鳥獣被害対策など、一人でも多くの
方に安心して帰還いただけるよう
生活環境の整備を進めてまいりま
す。

また、台風と大雨災害からの復興
につきましても、被災箇所への復旧に
全力を挙げ、被災された方々が再び
前を向いて歩み出せるよう、引き続
ききめ細かく対応してまいります。

さらに、浜通りの産業基盤や雇用
回復を図るべく進めている国家プ
ロジェクト「福島イノベーション・
コースト構想」の効果を全県に波及
させるとともに、農林水産業や商工
業などの既存産業についても、人材
の確保・育成を始めとした総合的な
支援に努めてまいります。

次に、人口減少対策につきまして
は、子育て世代や若者の雇用の場を
確保するなど、安心して結婚・出
産・子育てができる環境を充実させ
ることが重要です。引き続き、保育
の受け皿確保や医療・福祉・介護の

人材確保・育成 全国に誇れる健康

長寿県を目指す取組を進めていく
ほか、定住・二地域居住を始め、本
県が持つ可能性、魅力、強みをいか
した「福島ならではの」地方創生を
推進するなど、幅広く取組を展開し
てまいります。

今年の七月には、東京オリンピッ
ク・パラリンピックが開催されます。
皆様と共に、これまでの御支援に対
する感謝の思いと、復興が進む福島
の姿と魅力を国内外に広く発信で
きるよう、関係の方々々と力を合わせ
て準備を進めてまいります。

今年度は復興・創生期間の最終年度
を迎えます。これからも常に危機意
識を持って職務に臨み、県民の皆様
そして国内外の福島に心を寄せて
くださる全ての皆様と「共働」しな
がら、次の世代に夢と希望をつない
でいけるよう全力で挑戦を続けて
まいりますので、今後とも、一層の
御支援、御協力をお願い申し上げます。
新年の御挨拶といたします。

今までの歩み

札幌福島県人会

事業部長 今野 操

福島県福島市で八人兄妹の末子
として、明治生まれの両親から生ま
れました。それから福島一中、福島
県立福島商業高校を卒業して東京
都江東区に就職し、五年で福島に帰
ってきました。それから酒屋さんを
していた兄の手伝いのかたわら車
の免許を取ることを目的に北海道
の江別に昭和四十六年十月に來道
しました。免許取得後に江別の民間
会社に勤務をして定年まで働くこ
とができました。

その間、江別にあつた混声合唱団
に籍を置き、合唱の楽しさ、ハーモ
ニーのすばらしさに感動し、現在も
続いています。その後、女性団員と
結婚して娘が生まれました。

平成六年に札幌県人会に入会し
て、仲間として楽しく明るく意見を
交換して県人会の皆様と福島県北
海道事務所の皆様と共に発展する
ことを願いつつ頑張っていること

ろです。

以前に脳梗塞になったので、皆様
も健康に留意して、「かぜひくな、
ころぶな、ストレスをためるな」で
頑張りましょう。



【ななかまどコンサートの様子 (左から3番目)】

“故郷のお米キャンペーンに感動”

美幌町福島県人会

会員 刈谷 敏子

私の実家は、福島県郡山市日和田
町高倉という小さな村です。“ひと
めぼれ”“こしひかり”米を生産し

会員通信

ている所です。福島県の農業試験場
 ができ一躍有名な村になりました。
 十月二十六日(土)、二十七日(日)
 美幌町のスーパーアークス店で、全
 国農業協同組合連合会福島県本部
 から来ていただいた田谷正博課長
 代理の方と福島県北海道事務所の
 金田亮介主事、また美しいお米ミス
 が来てくださり、お手伝いの方が何
 人もいて、福島米“こしひかり”
 のイベントをしてくださいました。
 福島人の私にとって嬉しかった。ま
 た、田谷さんと話していると、お母
 さんのいとこさんにあたる人が、私
 の実家と同じ自治会で、私は帰郷し
 た時會つて話したのです。話してい
 る場所、次から次、意気投合して、
 嬉しさで感激でした。大きな偶然で
 した。こんな事つてあるのでしょうか。
 不思議でした。東日本大震災に
 あつた時、九月に帰郷し、胸がはり
 さけそうになり、しばらく心から笑
 顔になれず辛い日々をすごし、あの
 風景が頭から離れませんでした。私
 に何かできる事はないだろうか、東
 日本大震災が、早く復興されますよ
 うに、震災に遭つた人達が、前向き

に元気になりますように、原発の区
 域の人達が、早く我家に戻られ、原
 発が収まりますように、海の物、山
 の物、農産物、酪農物が、出荷でき、
 買つていただけますように、また大
 型台風19号の災害に遭つた人達が、
 心と身体が前向きになりますよう
 に、朝夕東北に向かつて祈ります。
 私が福島にしてあげられる精一杯
 の心です。福島米の“こしひかり”
 が美幌のスーパーアークス店、シテ
 イびほろ店に販売されています。売
 れ行きが良く、嬉しくなります。私
 は“放射能の厳しい検査をしてい
 るのは、福島だけです。どこの米よ
 り安心して食べられるよ”と言つて
 います。店には福島県産の梨、桃、
 米、酒、陳列されています。あかつ
 き桃、身不知柿、皇室に納めている
 事を知りました。今回のイベント、
 福島米の“こしひかり”は、私に
 とつて最高の感動でした。忘れられ
 ない日、私の心を励ましてくださつ
 た日でした。心から感謝しています。
 ありがとうございます。最後に、
 私は福島人の誇りを持って、正しい
 と思う心で、行動していきたいと思



【スーパーアークス美幌店でのイベントの様子】



【沖縄での記念写真】

つています。福島災害、震災、が早
 く復興されますようお願いしています。



【家族との思いでをポスターカラーで描く】



【賞状と盾を手にする吉田さん】

道民家庭の日絵画コンクール(北
 海道青少年育成協会主催)の中学校
 の部で、美幌中学校2年吉田美咲季
 さんの「私の宝物」が最優秀賞の知
 事賞に選ばれました。

「道民家庭の日絵画コンクール」で
 知事賞受賞

美幌町福島県人会

幹事 吉田 武薫

涼子

ご夫妻の長女 美咲季 様

合同観楓交流会を終えて

別海町福島県人会

事務局長 大内 照雄

この度、合同観楓会参加の会員の皆様お元気ででしょうか。合同観楓会の担当事務局です。健康状態はどうか、多くの参加者が出席していただけたか、心配の多い行事担当になりました。

各県人会に案内状の発送を済ませ、ホテルの予約や予算と順調でしたが、観楓会日程が十月上旬、丁度消費税増税、考えていませんでした。また、ホテルの事情で送迎バスの手配が難しい。

交流会ゲームは、どうしたら皆が楽しめるか、若くない状況で無理をしないで参加していただけること、限られた予定時間で何ができるか、悩みました。結局はスカートゲームと決め、どのようなゲームか試験的に県人会仲間で試しました。なかなか思うようにいかないものです。準備上では道具、集計方法はどうか、悩みが多くあり心配したが、多

数の参加者で安心して当日を迎えることができました。

当日会場スペースのないなかで、ゲームに入りました。ルールを決め、投球方法は自由、開始、なかなか点数が取れない苦労がありました。

一度に全部を投げて皆の笑いを誘ったり、一個ずつ丁寧を狙う人、途中でお手玉が破れたり、いろいろなトラブルも発生、ゲームの面白さを表して宴会時間をのこし各自温泉に浸り、ゆつたりと楽しみました。

交流会となり集合写真撮影に協力いただきました。

いつもの式順で始まり、事務所から贈られた福島県会津のお酒、用意した飲物、ホテルの御馳走、県人会だからこそ、ふくしまのお酒がなお旨い。用意した地元、根室酒北の勝大海もよそに置いて、大いに飲み、笑い、おしゃべり、時代に沿ったカラオケで盛り上がり、この雰囲気、カラオケに挑戦する人、笑いの切れない母県ふくしまの話、互いの近況報告、一年振りのひと時の楽しみ、遅くなりましたが、多忙の中、遠いところから新田耕作次長さんにも

参加をいただき感謝をしながら、ふくしま饅頭も美味しく頂き本当にありがとうございました。

時間も過ぎ、ゲームの結果発表を残しました。結果は、練習のときは、あまり乗り気なかった、白石敏子さん(別海町)が一点勝負で前年度優勝者渡辺さんを破り最高点で優勝、豪華賞品をゲットいたしました。本人も「ほんとかしら」とビックリしています。大会になると違うものです。

僭越ですが心配していた観楓会、御盛会に終了させていただきました。ありがとうございました。参加された皆さん、そして各会長さんの御協力本当に感謝をいたします。嬉しいです。

最後になりましたが、都の流れには追従しきれない困難はこれからもありますが、私たちの加齢は確実に進行しています。誰しもが通る定めの中、健康である限り、趣味や余暇を堪能したいものです。これからも希望がもてる明るい地域、風土の中、より多くの人たちと触れあいたいものです。

本当に御協力ありがとうございました

ました。



【合同観楓会での集合写真】

千歳郷土餅つき大会の参加に寄せて

千歳福島県人会

事務局次長 白岩 隆

新年明けましておめでとうござい
います。

昨年十二月七日に千歳市内の各県人会が郷土色ある餅を披露する「千歳郷土餅つけ大会」が市内で開催されました。

この餅つき大会は、今年で三十一

回目で、千歳では歴史ある行事になっています。今年は、千歳市で活動する全国十四県人会が参加しました。

各県人会は郷土色溢れるお国自慢の餅をつき、一パック二個入りの餅は千歳市民に百円で販売されたのですが、毎年、販売前からたくさんの方々が行列を作っている状況です。

今年はこの購入代金はすべて令和元年台風19号で被災した福島県、宮城県、岩手県へ義援金として寄付される予定です。我が千歳福島県人も会員十三名と福島県北海道事務所から新田さんに参加していただき、郷土の餅「あんこ入りよもぎ餅」を九十パック作成し提供しました。このよもぎ餅は、会員の飯村さんが春先に収穫して冷凍保存したものを使って作りました。

とても香りが良く市民の皆様には大変好評でした。

この餅つき大会は、千歳福島県人会の会員の皆様が「餅つきを通じて故郷を思い出し、そして交流し、親睦を深めているもの」です。

更に餅つき終了後は、昼食会を開催し更なる親睦を図りました。どの県人会も同じだと思えますが会員の高齢化が進んでいます。なお一層の会員同士の繋がりを大切にするとともに、新会員の加入促進を進めていかなければと思います。最後になりましたが、今年の台風により被害を受けられました方々に対して千歳福島県人会一同謹んでお見舞い申し上げます。



【餅つき大会の様子】

新会員の紹介

札幌県人会

今廣 佐和子 様(出身喜多方市)
佐々木 正 様(出身いわき市)

福島県からのお知らせ

「茨城・福島PR展」
「苦小牧」を開催しました

令和元年十一月二十三日(土)～二十四(日)に、MEGAドン・キホーテ苦小牧店にて「茨城・福島PR展」
「苦小牧」を開催しました。
りんごやあんぽ柿、ままだーるなどの県産品の販売、ふくしまの酒の販売を行うとともに、観光パンフレットの配布を行いました。



【イベントの様子】

福島県産農産物等PRイベント
「ふくしまプライド。」「北海道・冬」を開催しました

令和二年一月十七日(金)～十八(土)に、旬を迎えた「あんぽ柿」、「いちご」、「にら」、「しゅんぎく」の県産農産物や県内観光地の魅力をPRするイベント「ふくしまプライド。」「北海道・冬」を札幌駅前通地下歩行空間で開催しました。

イベントには、ミスピーチキャンペーンクルー(山田奈菜さん)やあんぽ柿生産者の曳地一夫さん(伊達市梁川町五十沢地区)、JAふくしま未来(伊達地区)に生産部会長の佐藤俊博さん、同じく春菊生産部会長の阿久津福雄さんが札幌に駆けつけ、あんぽ柿やにら、しゅんぎくの試食を提供しながら福島県産の野菜や果物のおいしさをPRしました。

また、物産販売コーナーでは、あんぽ柿やお米、県産品の販売、お酒の試飲・販売を行い、買い求めるお客様で大変な賑わいをみせました。



【佐藤なら生産部会長と阿久津春菊生産部会長】



【ミスピーチキャンペーンクルーと曳地さん】

福島県公式イメージポスター「二〇一九及び市町村版「来て」ポスターを無償で提供しております。

本県に対する理解促進と関心を高めていただく契機となるよう、福島県クリエイティブディレクター・箭内道彦氏による監修のもと、福島県の魅力と今を伝えるため、インパクトのある五種類のイメージポスターを作成しております。また、「来て」のポスターについては、市町村と力を合わせた「共働」により、県内の様々な風景を映した市町村版のポスターも作成しております。

風評払拭や風化防止に向けて、過去最大規模の枚数で作成し、本県を応援いただける県内外の企業や商店、団体、自治体等の皆様に数多く掲出いただけるよう無償で提供いたします。会員の皆様で御協力いただける方がいらつしやいましたら、当事務所まで御連絡ください。また、よう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

（福島県公式イメージポスター二〇一九はB1・B2・B3サイズ、

市町村版はB1・B2サイズがあります。それぞれ一枚から受付しております。）



東京二〇二〇オリンピック聖火リレーが福島県からスタートします。

二〇二〇年の東京オリンピック競技大会に先立ち、オリンピック聖火を採火地ギリシャから開催都市東京都まで運ぶ東京二〇二〇オリンピック聖火リレーが全国各地を巡回します。

福島県の聖火リレーでは、令和二年三月二十六日（木）に福島県の復興のシンボルである「ナショナルトレーニングセンター「ヴィレッジ」」において全国の聖火リレーのグラウンドスタートを実施した後、二十八

日（土）までの三日間で、東日本大震災からの復興の歩みを着実に進める沿岸の市町村を始め、福島県内各地で広くリレーを実施します。

みどころは、相馬野馬追のメイン会場である南相馬市・雲雀ヶ原祭場地、只見川と只見線第一只見川橋梁が織りなす絶景地・三島町、海外からの観光客にも人気の伝統ある宿場町である下郷町・大内宿、会津若松市のシンボルである鶴ヶ城などです

東京二〇二〇聖火リレーのコンセプトは、「Hope Lights Our Way／希望の道を、つなごう。」です。支え合い、認め合い、高め合う心でつなぐ聖火の光が、新しい時代の日の出となり、人々に希望の道を照らし出します。



キビタン©福島県